

保育おおさか

No. 470

平成26年10月1日

発行人 永野 治男 編集人 齊藤 和正

大阪府中央区中寺1丁目1-54
TEL.06-6762-9001 FAX.06-6768-2426
http://www.ans.co.jp/u/osakahtoiku/

子ども・子育て支援新制度説明会

8月20、21日の2日間にわたり、「子ども・子育て支援新制度」説明会(経営者部会・保育部会共催)が大阪府社会福祉指導センターで開催され386人が参加しました。

第一部では、行政説明。第二部では、参加者から事前に集めた質問事項に対して大阪府から回答がありました。

大阪府子育て支援課総括主査玉田明氏からの、子ども・子育て支援新制度の概要と公定価格等についての説明では、まず、「新制度は、平成27年4月から本格施行の予定であり、市町村が事業計画を策定し、実施すること」をポイントとしてあげられました。以下に主な内容を簡単に紹介します。



○市町村の子ども・子育て支援事業計画(5か年計画)において保育所は、供給体制を担う「担い手」になるため、今後5年間に、何人の子どもを受け入れるかを市町村と十分に協議することが必要。

○既存の幼稚園・保育所が認定子ども園へ移行する際に、需要が供給よりも多い場合に原則認可・認定されることとなる一方で、認定子ども園への移行促進の観点から、供給が過剰となる地域においては、需要(量の見込み)に「都道府県計画で定める数」を上乗せすることになっている。

○認定子ども園・公立保育所・地域型保育事業の利用は、保護者と施設・事業者の直接契約、民間保育所の利用は現行のまま、保護者と市町村が契約。また、市町村が認可施設などの中で給付の対象となる施設などを確認することになる。

○幼保連携型認定子ども園の設置基準は国の基準を受け、都道府県政令市、中核市が条例で定める。

○公定価格の仮単価は、消費税率が10%に引き上げられた場合のもので、平成27、28年度は、消費税増収額が満年度化する前の年度であるため、「0.7兆円の範囲で実施する事項」を反映する前と、今般示された仮単価との間の水準となることが想定される。

○認定子ども園での公定価格は1号認定子どもの定員と2、3号認定子どもの定員に分けて算定。

○利用定員を超えた受入れ(120%以上)が恒常的な場合は利用定員の見直しが必要であり、見直しが行われなかった場合は公定価格が減額調整されることになる。

定員超過状態の起算点については現在、国において検討中。

続いて、「大阪府認定子ども園の認定の要件に関する基準を定める条例」及び「大阪府認定子ども園の認定に関する審査基準」の一部改正案、また、「認定子ども園への移行意向調査の結果概要」(保育おおさか9月1日号に掲載)について説明がありました。

最後に、保育所が認定子ども園に移行するにあたってのお願いとして、「1号認定子ども園の定員を設ける場合、現在いる2、3号の子どもが引き続き利用できるように配慮した定員設定」と「認可・認定基準を満たしているか市町村とともに必ず確認」の2点を挙げられました。

行政説明後に、質問事項60項目について、全保協保育施策検討特別委員会委員の篠崎直人氏と全国経営者部会委員の篠崎直人氏と全国経営者部会委員の篠崎直人氏と村井慶二氏がコーディネーターとなり、玉田氏に加え、同課課長補佐の赤井敏宏氏と質疑応答・解説を行いました。

(編集委員A・O)

秋の気配。運動、芸術と良い季節になります。各園でも運動会を実施する園が多く、子どもたちの成長を感じる季節です。

テニスの全米オープンでは錦織圭選手が日本人初となる決勝に進み、テニスをよく知らない私も彼の姿に感激しました。

これまでの彼を支えた人たちの様々な出会い。中には私財を投じて応援してきた方もいらつしやるそうです。決勝前日、彼は、想像を絶する重圧から胸が痛くなり、十分に眠れなかったそうです。結果は、日本人初の準優勝。快拳だったが、本人は悔しさを見せ、「自分のテニスができれば優勝できたかもしれない」と言い、若い彼は「また決勝へ戻ってきたい」と力強く発言しました。錦織圭選手の姿を見て、元氣や勇氣をもらった人は多いのではないのでしょうか。

我が息子も3歳。初めての運動会で、習ってきたことを毎晩家で披露してくれます。泣かずにやり遂げられるのか。最後まであきらめられない。がんばれみんな！そこから大きな舞台へと続いている。

(編集委員K・M)



当初予算要望に府から回答

8月27日、大阪府社協、施設正副部会長会議、市町村社協連合会、民児協連合会の4者連名で「平成27年度大阪府当初予算に対する要望書(全16項目)」を提出。保育部会に関するものは2項で、府からの回答は以下のとおり(一部要約)です。

地域主権改革による市町村への権限移譲後においても、それまでの大阪府の指導方針等を市町村に十分に引き継ぐとともに、市町村における円滑な運用に向けて引き続き市町村との連携や指導等を図りたい。

実施いただいているところである。

引き続き、府内の社会福祉法人に対する指導に格差が生じないように、市町村との連携や指導等を図られるなど、権限移譲において、法人・施設が混乱を招かないよう対応されたい。

【府からの回答】

● 権限移譲後においても市町村間で格差が生じることなく、府内統一した指導監査を行えるよう、指定都市、中核市、圏域ごとに設置したブロック連絡会幹事市の担当者が参加する府市連絡会検討ワーキングで議論・検討を行い、業務や利用者への支障をきたさないように、市町村との調整、連携を図ってまいります。

● また、社会福祉協議会が設置し、施設部会代表の委

【説明】
これまで大阪府では、各ブロック連絡会の幹事市を含めた「府・市法人監理・監査関係事務連絡会」において、府内の社会福祉法人に対する指導に格差が生じないように、情報の共有化や権限移譲に係る諸課題への対応について協議され、府内市町村職員を対象とした「職員研修」や「指導監査実施方針」の共同策定、「チェックリスト・指摘標準例文」の検討等について、

員が参画されている検証ワーキングのご意見も伺い、指導内容の平準化や課題の解決に引き続き取り組んでまいります。

来年度より本格施行となる「子ども・子育て支援制度」が府内において円滑に実施されるよう、以下の点について十分に配慮されたい。

【要望詳細①】

「都道府県子ども・子育て支援事業支援計画」策定にあたっては、府内市町村との十分な協議・調整のうえ策定されたい。また、市町村の区域を超えた広域的な見地から行う調整は、大阪府において主導的に実施されたい。

《①に対する回答》

● 本府では、子ども・子育て支援新制度の円滑な実施のため、平成25年度から市町村をブロック分けした圏域会議を設け、市町村に情報提供を行うとともに、広域調整等について協議・調整を行っております。

● 市町村子ども・子育て支援事業計画で設定される量の見込みと供給体制の確保の方策を積み上げる本府子ども・子育て支援事業支援計画につきましても、この圏域会議等を活用し、市町村と十分な協議・調整を行った上で、策定してまいります。

【要望詳細②】

既存の保育所が認定子ども園へ移行する場合に設定される、需要に加えての「都道府県計画で定める数」は、現在の施設の利用状況や認定子ども園への移行に関する事業者の意向等を、十分に踏まえて設定いただきたい。

《②に対する回答》

● 本府子ども・子育て支援事業計画の策定については、大阪府子ども施策審議会及び同計画策定部会において、現在審議いただいております。

ます。

【要望詳細③】

「子ども・子育て支援新制度」に関する通知や情報等について、実施主体である市町村に対して、速やかな伝達と正確な情報の提供に努められたい。

《③に対する回答》

● 本府では、市町村圏域会議を通じて、国の説明会の開催などに応じて、新制度についての速やかな情報提供を行うとともに、各市町村の状況をヒアリングし、本府でとりまとめるうえ、この情報を各市町村へフィードバックするなど、きめ細やかな取り組みを進めてまいります。

● 引き続き、市町村に対し迅速かつ正確な情報の提供に努め、市町村の新制度への円滑な移行を支援してまいります。(事務局)

● また、市町村の区域を超えた広域的な利用に対応するため、本府主導のもと、圏域会議等も活用しながら、新制度の実施主体である市町村が主体となって広域調整を行うことができるよう、府内共通の仕組みにより実施しているところでもあります。

● 「都道府県計画で定める数」については、同部会で審議いただき、「1号、2号、3号認定を問わず、幼稚園、保育所が、認定子ども園への移行に伴い希望する定員で認可、認定ができるよう、需要量を便宜的に上乗せする」という、事業者の意向等に十分に配慮した考え方を整理したところであり、今後この方針に基づき、本府の「都道府県計画で定める数」を設定してまいります。



地域社会とともに子育てできる コミュニケーション・ステーション

実体験を通し
“生きる力”をもつ人に

豊中市

あけぼのドロップス

園長の高山真由美先生は、「育ちを急がせず、また高齢者も多いことから、地域の子育て支援や世代間交流も実施。毎年、七夕まつりには地域の方を招待し、たくさんの方の参加で盛大に開催されています。」



園庭では野菜も栽培します

創立時から地域社会とともに子育てできるコミュニケーション・ステーションとしての役割をもち、住民の方が気軽に立ち寄れる場として位置付けています。地域的に転勤者が多く、孤立した家庭もあり、

「今だからできることを大切に、多くの実体験を通して『生きる力』をもつ子どもに育つことを願って保育しています」と語られました。
(編集委員Y・T)

20年ほど前に、専門家の指導のもと保育担当制を導入。その後「家庭的保育」とは少し違った視点でスタートしました。それは、「一人ひとりをしっかり受け入れる」ということ。この姿勢は4、5歳児にも受け継がれました。



若き冒険者たちその1



若き冒険者たちその2

(編集委員J・F)

陽保育園は寝屋川市市駅から徒歩十数分にある保育園です。昭和47年の設立当初は0〜3歳、30人定員でしたが、平成15年の建て替えを機に、0〜5歳定員60人に増員されました。乳児中心の保育は他の園

と少し違った視点でスタートしました。それは、「一人ひとりをしっかり受け入れる」ということ。この姿勢は4、5歳児にも受け継がれました。

「子どもたちのくるぶしが浸る程度の公園内の浅い川を皆、サンダル履きで探検をしながら歩きます。サワガニやカエル、バッタなどの虫たちにたくさん出会えます。」

「今年「しまへび」と遭遇。段差のある場所やごく小さな滝で思いきり水浴びを楽しめます。」

「今年「しまへび」と遭遇。段差のある場所やごく小さな滝で思いきり水浴びを楽しめます。」

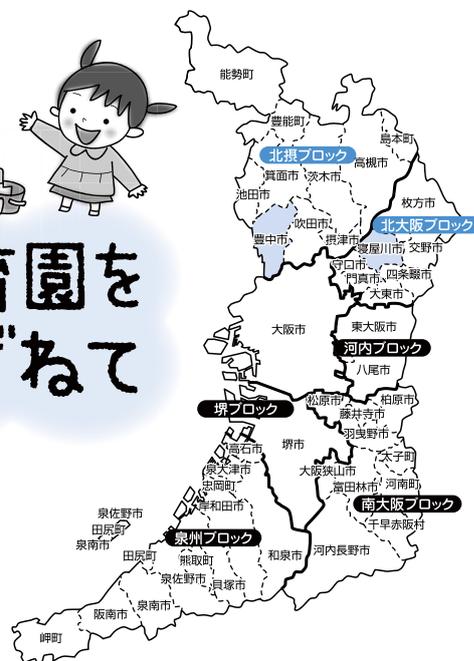
あけぼのドロップスは、豊中市の北東部に位置し、0〜3歳までの乳児施設として平成14年に定員45人でスタートしました。保護者の要望もあり、今年度からは定員を60人とし、就学前までの子どもの受け入れを開始しました。木のぬくもりを肌で感じられる木造建築や優しい光の照明にこだわっており、陽だまりとなる踊り場の絵本コーナーでは、いつでも絵本を手にとることができ、貸し出しもされています。園庭の片隅の菜園では、季節の野菜を栽培し収穫を楽しんでいます。

保育の特徴は、一人ひとりを大切に、0〜2歳児は担当制と布オムツを取り入れ、より丁寧な関わりを通して大人との愛着関係を築いておられます。



保育園を たずねて

502



を芯に据え、園独自のスタイルへ少しずつ移行していったそうです。業者による布オムツを採用しており、手間はかかりますが、乳児とふれあう時間が長くなります。保護者から「どんな風にするの?」「何枚するの?」「家でも試してみる」など、家庭とのコミュニケーションにも役立っています。

一人ひとりにしっかり向き合い受け入れる
生き物にふれ思いきり水遊び

寝屋川市

たいよう 太陽保育園

南

海高野線北野田駅より徒歩15分、閑静な住宅地にあるとみなみ保育園は、地域から待ち望まれていた保育園として今春定員90人でスタート。

「遊びを通してさまざまなことを学び、生きる力を身につけていく」ことを保育目標に「意欲、好奇心のある子ども」「健康で心豊かな子ども」「思いやりのある子ども」を目指す子ども像として日々の保育を展開されています。

0、1歳は育児担当制、2歳はグループ制を導入し、心理的愛着関係の形成を大切に、より家庭に近い

「自然と友だち」 五感を使って感性豊かに

“命”を大切にしたいと思う心を育てる

堺市

とみなみ保育園



海水からの塩づくり。どうして塩ができるのかな？

環境づくりに取り組まれている、子どもたちの安心感に包まれた笑顔が印象的でした。

3〜5歳の幼児の基本的な生活は「ファミリー（異年齢）で過ごします。年長児が年少児に穏やかに語りかけ、手を差し伸べている姿はとても微笑ましく、お家で過ごす兄弟姉妹のようでした。

月に数回フレンドデー（年齢別）やチャレンジデー（科学的概念・運動・表現などの選択制）も取り入れ、興味・関心から主体的に取り組める工夫がされていて、大人もわくわくするような時間です。

また、茶の湯体験や和太鼓演奏など日本文化にふれる機会や異文化を知る機会も用意され、たぐさんの体験を通して子どもの育ちにつなげている園のようすが伝わってきました。



大きなたけのこにびっくり！皮むきもしました

「昼間の家庭のような温かい空間で飼育や栽培など自然にふれあいながら共生を感じ、思いやりや命を大切にすることを育んでいきたい。そのためにも私たち保育者がモデルとなることが大切」との海老澄代園長の言葉に強く感銘を受けました。（編集委員Y・T）



保育園をたずねて

503



大

阪狭山市と堺市を分ける陶器山の山すずりには閑静な住宅街です。

門をくぐるとまず目に飛び込んできたのがぶどう棚。枝いっぱい、たわわに実るぶどうは今（9月上旬）が旬で、子どもたちも給食やおやつで味わっています。

私も一粒いただきましたが、甘酸っぱくて、とても美味しかったです。続いて「果樹の森」。レモン、さくらんぼ、ラズベリー、柿、キウイ、びわなどたくさんの果樹が植えてあります。



たわわに実ったぶどうが出迎える

宮武敷園長の「子どもたちに果物がどうやってできるのかを見せてあげたい」という思いが込められています。

かわいらしい遊具と砂場がある園庭の向こうには、広い公園が隣接しており、園庭同然に毎日行き来して遊んでいるそうです。

園舎に入ると元氣いっっぱいのあいさつで子どもたちが出迎えてくれました。日々の保育にはオランダの保育をモデルとした理論を取り入れています。

子どもの主体性を引き出すため、保育者と子どもとの関係の絶妙なバランスを保つことが求められます。保育者は子どもに対して時には距離を置き、時には寄り添うことで、子どもの自己選択と自己決定を促します。そうした日々の積み重ねが、人間力を育んでいます。



主体的に遊ぶコーナー遊び

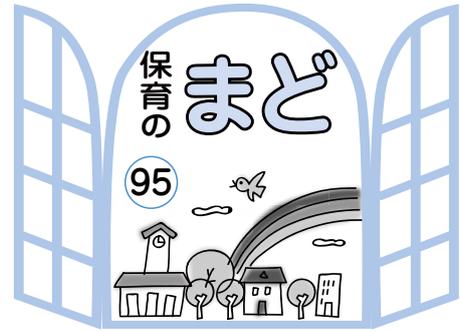
時には受け身になりがち な子どもを英語圏で普及している「サークルタイム」と呼ばれる活動を通してサポートし、バランス良くその主体性を引き出しておられました。導入して5年目、お話を聞くときは聞き、遊ぶときは創造的に遊ぶ。メリハリのある子どもを育んでおられます。（編集委員N・M）

子どもの主体性を引き出す 保育者の絶妙なバランス

たくさんの自然の恵みに 囲まれて

大阪狭山市

おおのだい
大野台保育園



シリーズ●災害に備える取り組み

子育て世代への防災の意識調査の結果報告②

大手前栄養学院専門学校

古川和子・睦岡悦子

前号に引き続き、昨年度会員14園にご協力いただいた、子育て世代の防災への意識調査アンケートの結果について紹介します。

過半数の人が備蓄食品を準備せず

前回は、各家庭が「必要と思っている備蓄食品の種類」について報告をしました。今回は「災害用備蓄食品の準備状況」について尋ねた結果について報告します。

まず、備蓄食品を「準備している」と回答した人は17.6%、「準備予定」と回答した人は21.9%、「準備をしていない」と回答した人は60.4%と、過半数の

人が準備をしていない状況でした(図-1)。

また、備蓄食品の準備状況と住まいとの関連を見たところ、「備蓄品を準備していない」と回答した人の割合は、集合住宅に居住している人のほうが、1、2階建て住宅に居住している人より多くなっていました。

これは、集合住宅は1、2階建て住宅に比べ備蓄スペースの確保が難しいことが要因の1つとなっていると考えられます。

次に「備蓄品を準備している」または「準備予定」と回答した人に、家庭で備蓄(または備蓄予定)をしている食品類について尋ねました。

結果は「飲料水」が90%と最も多く、次いで「菓子類・調味料類」、「副菜用缶詰・レトルト食品」の順となっていました。「水」は備蓄に欠かせない食品として認識されている一方、米と回答した人は41%で、「飲料水」や「缶詰・レトルト食品」と比べると割合が低く、備蓄の必要性をあまり感じていない結果となりました(図-2)。

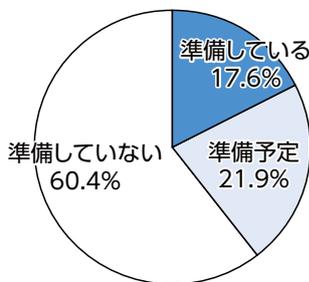
米は、日常的に使用する食品として各家庭で常備されている、備蓄食品としての認識がされていないのではないかと考えられます。

熱源の準備状況は

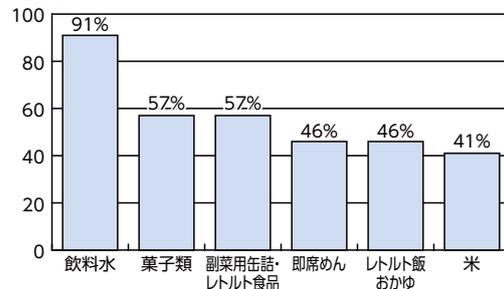
大規模災害が発生した時には、ガスや電気などのライフラインが切断されるため、家庭において、これらの代替えとなる熱源の準備が必要となります。

そこで、代替えの熱源の準備について尋ねたところ、「準備している」と回答した人は約39%、「準備予定」と回答した人は約15%、「準備をしていない」と回答した人は約46%と、半数近い人が熱源の準備をしていない状況でした(図-3)。

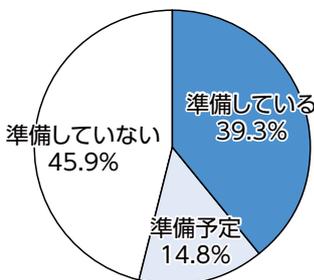
備蓄食品の準備状況 (図-1)



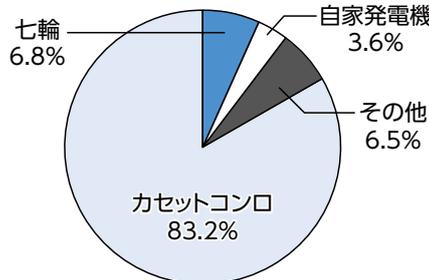
備蓄食品 (図-2 複数回答)



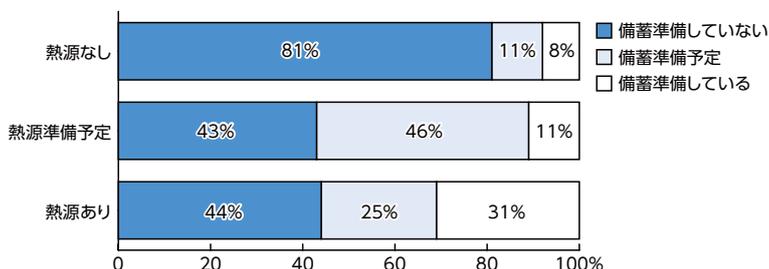
熱源の準備 (図-3)



熱源の種類 (図-4)



熱源の準備と備蓄の準備 (図-5)



ろ、「準備している」と回答した人は約39%、「準備予定」と回答した人は約15%、「準備をしていない」と回答した人は約46%と、半数近い人が熱源の準備をしていない状況でした(図-3)。

熱源としては、「カセットコンロ」が一番多く、全体の8割を占めていました(図-4)。

また、熱源の準備状況と備蓄食品の準備状況の関連をみたところ、「熱源を準備していない」と回答した人ほど備蓄食品を準備していない傾向が高いことがわかりました(図-5)。

次号では、「避難体制」の準備状況について報告します。



スマホで「よい子ネット」 より効果的な情報発信を

—— 操作説明会を開催

8月27日、大阪府社会福祉会館で「よい子ネット」操作説明会を開催しました。今回はスマートフォンを用いた操作説明会としました。

よい子ネットの3大機能
①メール配信②トピックス掲載③アンケート、のうち

①と②の説明が行われました。

「メール配信」は、各保育園のよい子ネットに保護者などが登録することでメールを受信できるようになり、保育園のお知らせやクラスごとの連絡を受け取れる機能



能。実際に研修会用のよい子ネットに登録し、メールの送受信を体験しました。

参加者からは、「一軒ずつ電話連絡せず、効率的だ」との声が。

「トピックス掲載」は、よい子ネット内にある各保育園のページで、ブログのように写真や記事を掲載できる機能。「どんどん活用して、保護者に保育園の活動をもっと知ってもらいたい」と、積極的な感想も出されました。

11月にはパソコンを使っ

お任せいただきました。

その間に我々は、幼保連携型認定こども園となるか、保育園として残るのかを判断し、地域の子育て支援に力を蓄えましょう。などと都合の良いことを考えていては叱られるでしょう

か。

保育園は、本来の児童福祉、地域福祉、地域の子育て支援の観点に立つて、いち早く判断し経営方針を示すことで、良い意味で他の主体との差別化が図れるのではないかなどと考えていますが、選択の時間はあまりありません。
(旭ヶ丘学園S・T)



さんぽ

この原稿を書いているのは9月初め。今年の夏は冷夏になるとの長期予報がありました。記録的な大雨、土砂災害など、各地に被害をもたらした自然の脅威を改めて感じました。被害にあわれた方にお見舞いを申しあげます。

岐路の時、地域で役割を果たし 多様な主体との差別化を

今夏、セミの鳴き声が例年より少なく感じました。今年は、長雨・大雨の影響で、気温が例年のように上がらず、昆虫にまで影響したのかなと感じています。少子化の影響は日本人にとどまらず、今年少なかったセミの影響は、7年後、次世代のセミにも

及ぶのでしょうか？さて、話題は人間の世界に。少子化、子どもを安心して生み育てることが困難な原因は、保育園が少ないからといった論調もあります。子育てのすべてを保育園で賄いますと謳った新エンゼルプランが破たんし、「すべての子どもに良質な教育と保育を」と新制度が来年4月より施行。

待機児童解消は喫緊の課題で、「保育の量」を増やすため、多様な主体に期待されるのは大きいですが、我々も待機児童解消に尽力しつつ、その後は私たちに

ブロックだより

南大阪

地域の特性を發揮し 少子化問題解決を

9月10日、衆議院議員会館会議室で、子ども・子育て支援新制度について、内閣府主査加藤翔一氏、文部科学省係長金作志歩氏、子育て支援指導官沓澤進氏、そして厚生労働省保育指導専門官馬場耕一郎氏から現時点での進捗について説明を聞く機会をもちました。

この説明会は、浦野靖人



質問に対して熱心に回答いただきました

プしたい方など、ぜひご参加ください。
(調査研究委員T・K)

衆議院議員のご協力により実現されたものです。

参加者は9人と少人数でしたが、じっくりと私たちの質問に答えていただき、たいへん有意義で贅沢な内容となりました。

特に印象的だったのは、今回の新制度を支える財源の消費税増税率のうち1%分は地方自治体に配分され、社会保障をより充実させるためのものであるため、各自治体における保育の質の低下は想定していないとの内容でした。

また、私たちからは大阪府内の自治体によって、行政担当者の新制度に関する理解度や新制度に向けての進捗状況に違いがあることなどについて伝えました。国は地方、地域の特性を發揮し、自治体独自の子育て行政を後押しし、少子化を乗り切ろうとしていることを改めて強く感じました。

(編集委員N・M)